

最近の取組み、課題

2018年3月

国立公文書館長
加藤 丈夫

1、今年度の取組み(平成29年度)

「国立公文書館の機能・施設の在り方等に関する調査検討会議」の御提言を踏まえながら、様々な業務に、積極的に取組みを実施。そのうち、主要な事項を紹介。

(1) 積極収集

(2) 展示の充実

(3) デジタルアーカイブ等の充実

(4) 国際交流等

(5) 人材育成

(参考)「国立公文書館の機能・施設の在り方に関する基本構想」(抜粋)

2. 新たな国立公文書館についての基本的な考え方

(2) 新たな国立公文書館に求められる機能

- ・国内外に点在する歴史公文書等の積極的な収集や所在情報の集約・国民への提供を図る「**収集・情報提供機能**」
- ・憲法など国の重要な歴史公文書等を通じて若い世代も含めた国民が生きた歴史に親しみ学べる場を提供する「**展示・学習機能**」
- ・劣化が進む公文書の修復を行いつつ、歴史公文書等の原本を将来にわたって適切に保存する「**保存・修復機能**」
- ・国立公文書館等の利用者にとっての利便性を図り、歴史公文書等を活用した調査・研究活動を支援する「**調査・研究支援機能**」
- ・他機関と連携しつつインターネットの利用による歴史公文書等の公開を図る「**デジタルアーカイブ機能**」
- ・専門職員など公文書管理に関わる人材の養成体制や人材の充実を図る「**人材育成機能**」
- ・公文書をめぐる諸活動において関係機関の交流の拠点となるとともに、歴史公文書等やそれを保存する施設としての国立公文書館の重要性について広く伝える「**情報交流機能**」

(出典)「国立公文書館の機能・施設の在り方に関する基本構想」(平成28年3月31日
国立公文書館の機能・施設の在り方等に関する調査検討会議)2. (2)

(1) 積極収集

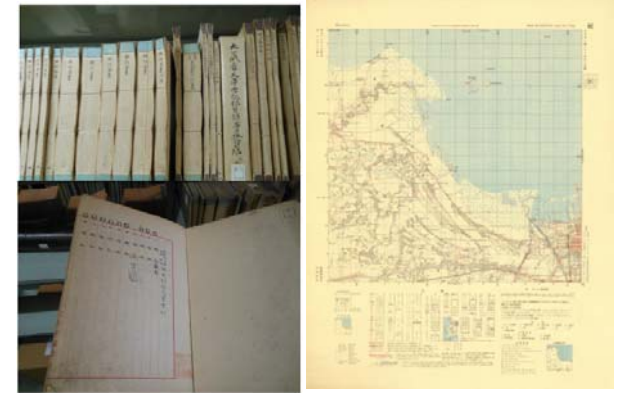
- ・「歴史資料等の積極収集に関する検討会議」において、収集対象として重点的に取り組む指標について検討
- ・デジタル化収集に関するパイロット事業により、大蔵省旧蔵史料筆写本、外邦図のデジタル複製物を収集

大蔵省旧蔵史料筆写本

- ・三井文庫所蔵
- ・井上馨の伝記編纂のために三井家編纂分室が大蔵省に出向いて史料を筆写したもの。
- ・原本は関東大震災にて焼失。残っていれば、当館に保存されるべきもの。

外邦図

- ・戦前に陸軍が作成した日本国外の地図及び海図。戦後、防衛研究所、東北大学等、国内外の機関が収集・保管して現在に至る。
- ・地図のデジタルデータ及び書誌情報の受け入れを行う。



大蔵省旧蔵史料筆写本

外邦図

(2) 展示の充実

さまざまな展示を実施、イベントも工夫



(特別展)

「誕生 日本国憲法」(4/8～5/7)

「日本とデンマーク 文書でたどる交流の歴史」(10/7～11/5)

日本国皇太子殿下、デンマーク王国皇太子・同妃両殿下御観覧
(10/10)



三殿下の特別展御観覧

(3) デジタルアーカイブ等の充実

国立公文書館デジタルアーカイブの充実

館所蔵資料のデジタル化(平成29年度は4万冊)

→全体の17%となる見込み

国立公文書館ホームページの充実

デジタル展示の充実

徳川家康—将軍家蔵書からみるその生涯—等のページ開設
インターネット、ソーシャルメディア(Twitter、Facebook)を
取り入れた対応



(4) 国際交流等

ICA年次会合(11/27～29メキシコシティ)

EASTICA総会及びセミナー(11/6～9貴陽)

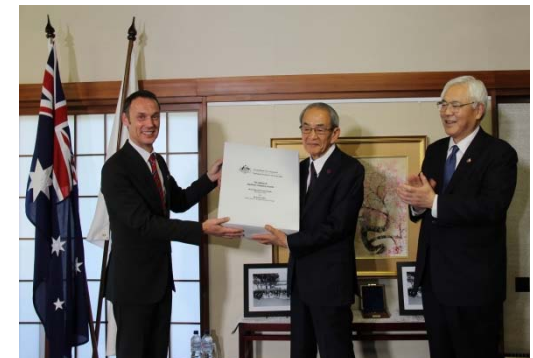
ベトナム国家記録アーカイブズ局との覚書交換(9/12ハノイ)

オーストラリア国立公文書館(NAA)所蔵日系企業記録の受入れ

NAAから日本に移送(10月末) 譲渡式(11/21 キャンベラ)



覚書交換(ベトナム)



譲渡式(キャンベラ)

(5) 人材育成

アーキビスト職務基準書の作成

○アーキビスト職務基準書

アーキビストの専門性の確立とともにその養成と社会的な地位の向上を図るために、アーキビストの職務(仕事)とその遂行上必要となる要件(知識・技能)を明らかにしたもの

○アーキビスト職務基準書作成にあたって

職務基準書作成にあたって、アーキビストに求められる能力や要件を分析それを踏まえ、(1)評価選別・収集、(2)保存、(3)利用、(4)普及の4つのカテゴリー、23の職務に分類し、職務ごとにその内容と遂行要件を整理。

○アーキビスト職務基準書の概要

趣旨

- 1 アーキビストの使命
- 2 アーキビストの倫理と基本姿勢
- 3 アーキビストの職務
- 4 必要とされる知識・技能

(1) 基礎要件

(2) 職務と遂行要件

(3) 職務全体に係るマネジメント能力

			公文書等の管理・保存・利用							所蔵資料及び目録		
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
			公文書作成機関の文書管理制度に関する理解	公文書作成機関の歴史、組織、施策や作成文書に関する理解	公文書作成機関における政策の検討から実施に至る過程及び実施に関する理解	アーカイブズ機関における保存及び利用に関する理解	過去にアーカイブズ機関が実施した判断に関する知識	中間書庫に係る規則及びその運用に関する理解	寄贈・寄託に係る規則及びその運用に関する理解	所蔵資料に関する理解	過去に修繕された公文書及びその利用状況に関する知識	所蔵資料の目録及び検索方法に関する理解
大分類	中分類	小分類										
評価選別・収集	指導・助言	1 公文書管理に関する助言及び実地調査	◎	◎	○							
		2 公文書管理に関する研修の企画・運営	◎	◎		◎						
	評価選別	3 公文書のレコードスケジュール設定	◎	◎	◎	◎	◎					○
		4 公文書の廃棄時における評価選別	◎	◎	◎	◎	◎					○
		5 公文書の協議による移管	◎	◎	◎	◎	○					○
		6 寄贈・寄託文書の受入れ判断				◎			◎			
	受入れ	7 中間書庫への受入れ・管理	◎					◎				
		8 公文書の受入れ	◎									
		9 寄贈・寄託文書の受入れ							◎			

2、今後の課題

○積極収集

- 積極収集事業実施方針の策定
- 収集資料の利用に関する具体的な仕組みの検討

○明治150年対応

- 明治150年記念特別展及び関連事業
- 政府が行う明治150年関連施策の実施、協力

○所蔵文書のデジタル化の推進

- 内閣文庫デジタル化計画の推進(新館開館までに完了することを目標)

○研修、人材育成、アーキビスト職務基準書

- 研修の更なる拡充
- 全国の公文書館等及びアーカイブズ関係の団体から9月を目途に意見を聴取し、更なる職務基準書の有効活用方策を検討するとともに、館主催の研修に反映
- 職務基準書を基に、高等教育機関との協力体制を構築
- 内閣府等を通じた各省庁の文書管理担当者への職務基準書の周知
- これからの人材育成、専門家の活用方策の検討
- 公的認証制度の確立に向けた検討

○書庫満架に向けた対応

- 受入れ文書量の増加を踏まえ、計画的に必要な書庫を確保

○新国立公文書館に向けた準備等

「世界に誇る」新たな国立公文書館の早期着工、十分な施設・体制整備(内閣府と協力)

- 平成30年度、設計を開始
- 新館を見据えた全体計画の検討
- 資料管理・保存に係る技術・機能等に係る調査検討